



もんぶかくだいじんしょう  
文部科学大臣賞

## おいしいおこめができるまで

茨城県水戸市立寿小学校一年

榎村 一機

じいちゃんのとくいなことは、しょうぎ、じてんしゃ、ほかにもいっぱいあるけれど、いちばんはおこめづくりだとおもう。

グーツとおなががなったときに、たべるじいちゃんのおこめはさいこうだ。ぼくのおきにいりは、ほかほかごはんのたまごかけごはん。いもうとは、しろいそのままごはん。

たうえのときのぼくのおてつだいは、なえのはいったはこをはこぶことだ。びっしりはえたなえのおもさで、はこはずんとおもい。一つぶのもみから、たくさんのこめがまたできるんだよってことも、じいちゃんからおそわった。えーつとぼくがいっいたら、

「じゃあ、かんさつしてみな。」  
と、じいちゃんがあまったなえをぼくにくれた。

はっぼうスチロールのはこに、たんぼのどろをいれて、みずをいれる。なえがたつように、どろのなかにうえるのはすこしむずかしかったけれど、ぼくだけのたんぼがかんせいした。おいしいおこめができるひみつも、じいちゃんからおそわった。みずをきらさないこと、くさをとること、そして、こころをこめてせわをすること。そうだ、かかしてもつくらなくちゃといったら、じいちゃんはにっこりとわらった。

たんぼのなえは、ぐんぐんのびていく。ぼくのせたけののびるスピードよりずっとはやい。ざっそうものびる。ぼくのたんぼはすぐぬけるけれど、じいちゃんは、ひろいたんぼの、いねのれつのあいだがあるき、ざっそうをぬいていく。あせかきのじいちゃんにはたいへんなしごとだ。でも、おいしいおこめをつくるためには、たいせつなしごとだ。とくいなことでも、どりよくはいるんだな。ぼくのたんぼのおこめができたら、みんなでおいしく食べたいな。もちろん、たまごかけごはん。